



学校法人 電子開発学園

北海道情報大学

Hokkaido Information University

HIU

2021年
6月発行
通巻 第26号

FD・SDニューズレター

巻頭言

新型コロナウイルス感染症 パンデミックがもたらした 教育改革への挑戦

学長 西平 順

世界的な新型コロナウイルス（COVID-19）によるパンデミックは、これまでの社会構造を大きく揺るがし、その影響は“社会に何がまず必要なのか”の課題解決のための優先順位を迫り、新たな社会形成が始まっています。高等教育においても同様であり、学生、教職員、キャンパス内すべてのスタッフの健康と安全を守るため、手洗いなどの衛生管理、ハイブリッド学習、ソーシャルディスタンスなどの感染症対策がしばらくは続くでしょう。このような状況のなかで、学生が求める要望に迅速に応え続けるためには、教育システムは柔軟で、適応性が高く、効率的でなければなりません。

本学の教育指針のコアである情報技術は、デジタル化が加速する将来社会において学生が活用するスキルであり、彼らを成功に導く極めて重要な要素であることは言うまでもありません。多くの学生は、将来社会で活躍することを夢に抱いてお

り、その一方今回のパンデミックによる授業形態の変化や情報分野への影響や、教育キャリア、仕事キャリア準備などの将来に敏感になっております。これらの不安を払拭するために本学は学習環境の整備について万全な対処が必要です。しかしながら、現状を振り返ると、依然として多くの学生が十分学ぶための学習環境の準備がやや遅れていると感じています。特に学外からの通信環境に恵まれていない学生が自立した学習を行う上でマイナスの影響を多く受けているように見え、高速インターネット接続の不十分な対応も大きな障壁の一つでしょう。このような大学施設や学習資源を活用できないことは、学生の成功への道筋において大きな障害となっている可能性があります。

社会基盤として動き出しているデジタルトランスフォーメーション（DX）計画のコンセプトである「ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」情報技術戦略は、今後の高等教育のあるべき方向性を決める原動力となることが期待されています。多様な学習者を支援し、彼らの成功に必要な整合性のとれたキャンパス戦略を強化し、学生を置き去りにしないこと

目次

1. 巻頭言…………… 1
2. FD・SDフォーラム開催報告… 3
3. 2020年度イベントの企画・実施小委員会から報告 …… 5
4. ICT活用による教育イノベーション推進小委員会の活動報告 … 6
5. 新しい教育方法検討小委員会の活動報告…………… 8
6. 2020年度SD活動報告 ……11
7. FD・SD活動行事実績および活動実績……………12
8. 編集後記……………12

が重要でしょう。DX 計画を念頭に整理された学習管理プラットフォームの実現に注力し、最大限活用することがますます重要になります。COVID-19 パンデミックにより生じた学習環境の不平等ギャップを埋める取組みは、公平なアクセスと多様な学習オプションが提供されることにより初めて可能となります。

また、COVID-19 パンデミックにより、高等教育における教員と学生の意思疎通が今日ほど重要であることを認識させる時代はありません。いくつかの報告によると、学生にとってどのような仕組みや資源を利用できるかを知る機会が少なくとされ、高等教育機関はこのような情報や支援を提供する必要性にも迫られています。具体的な対策として、COVID-19 パンデミックが続く中で、学生の勉学への取組みを持続させるためには、教員と学生の間により効率的な双方向の体験を創出できる仕組みが不可欠です。そのためには、これまでに行ってきた様なパンデミック発生による一時的な緊急対策から、今後は十分に設計された長期的なオンライン学習の活用が鍵となります。本学では、2020年に情報テクノロジーを教育システムに適応させましたが、トラフィックの急増やセキュリティの問題によりコンピュータ実習室の一部が閉鎖されたことや、高速 Wi-Fi が利用できなくなったため学生が必要とするアクセスができなかった事例があります。幸いなことに、本学の教職員は、デジタル学習の重要性と可能性を十分認識し

ており、対応も迅速であり、質の高いオンライン授業の実施に効果的に反映されています。多くの学生が、いくつかの学習領域においてオンライン授業の方が対面学習以上に効率的であると感じていると思います。事実、一部の科目では、デジタル学習が学生たちの成績を上げ、講義前の準備と確認事項などが用意されていることが、講義スケジュール、知識と技術を整理するのに役立つというものと想像しています。

本学では、過去 10 年以上にかけて独自の遠隔教育システム POLITE を開発し、他大学に先駆けてメディア教育を展開してきました。この遠隔教育システムでは、オンライン授業と対面授業によるハイブリッド型授業が提供でき、また教員が自らの努力で改変・改善が実施できます。COVID-19 パンデミックにより、今後は教員と学生が学習管理のプラットフォームとツールを最大限に活用できるよう、豊富なりソースを用意し、さらに教材を追加する必要があります。POLITE に求められる機能強化として、Microsoft Teams や Zoom などの会議システムと協調させ、講義を簡単に移入、構築、管理し、学生の学習レベルに合わせてコミュニケーションを潤滑にすることがあります。たとえば、学生はカスタマイズ可能な通知システム、好きなデバイスやソーシャルプラットフォームとのシームレスな統合、双方向性などの使いやすさから本システムになじめると考えています。コースやグループレベルでの発表やディスカッ

ションは、学生同士が互いに容易に打ち解け、助けあひながら、高い難度のゴールに的を絞ったコミュニケーションを個々人が実現するのに役立つでしょう。大小さまざまなクラスのグループやクラスでも、個々の学生の学習の進捗状況を知ることができ、個別化教育に役立つことも期待できます。本学の新たな遠隔教育システムは、これらの必要な機能を手に入れることにより、より先進的な高等教育機関へと進むことができます。また、最も重要な点の一つとして、組織全体のプラットフォームとして学習管理ツールにアクセスする仕組みを設定することで、教育機関は教員の教授スキルを向上させるとともに管理業務を簡素化し、より個々の学生の教育指導に活用できると考えております。

最後に、依然として終息の見えない COVID-19 パンデミックのなか、教職員と学生が途切れることなく多くの教育資源を利用することができる環境を作ること、長期的なニーズに合わせて変化し続ける環境に迅速に適応する柔軟性を備えているシステムをいち早く立ち上げることが肝要かと考えています。本学において、教職員の協力により構築されるポストコロナの新たな教育システムは、社会性豊かな高度情報技術を有する人材の育成に適応され、我が国の発展に寄与するものと確信しています。

FD・SDフォーラム開催報告

経営情報学部 学部 システム情報学科
准教授 越野 一博

1. はじめに

令和3年3月5日、令和2年度北海道情報大学FD・SDフォーラムが開催されました。新型コロナウイルス禍の最中であり、Zoomを使用したオンライン開催となりました。

今回は「ポストコロナに向けた新しい教育方法を考える」をテーマとして、総勢101人が参加しました。

最初に澤井 秀学長から開催挨拶としてFD・SDフォーラムのこれまでの経緯と意義についてのお話がありました。その後、講演(1)「オンライン授業の知見を活かす教育改革－桐蔭横浜大学の事例－」桐蔭横浜大学 副学長、教育研究開発機構 教授 森 朋子先生、講演(2)「ポストコロナに向けた新しい教育方法－芝浦工業大学の取り組みと今後の展望－」芝浦工業大学 副学長、システム理工学部教授、公益社団法人 日本工学教育協会 理事・国際委員長 井上 雅裕先生にそれぞれご講演いただきました。

それに続き、学内実践報告として情報メディア学科 教授 斎藤 一先生による「インストラクショナルデザイン(ID)の基礎科目における遠隔と対面のハイブリッド授業の実践報告」がありました。

本稿では、フォーラムプログラムに従い、それぞれの内容について報告いたします。

2. 講演(1)：森 朋子先生

森先生の講演概要は以下の通りです。

- 1) タイトル：オンライン授業の知見を活かす教育改革－桐蔭横浜大学の事例－
- 2) 講演時間：13:30-14:45(講演60分+質疑応答15分)
- 3) 講演内容

(1)コロナ禍 初動の対応

組織において迅速に意志決定を行うために、プロセスを変更した。全通常授業をオンライン形式とし、学生とのリアルタイムコミュニケーションの必要性を基準に、同期型授業と非同期型授業の2方式を採用した。

「学び」の評価と「教える」デザインの現状把握と評価を繰り返すことで、継続的に教育と学習の改善を行った。学生に対しては、自宅学習期間中のストレスや学習状況をアセスメントし、可視化することで教員と学生間のコミュニケーションツールとした。教員に対しては、推奨型オンライン授業形態の提案により支援を行い、学生からの感想を紹介することでモチベーションの維持や向上を誘発させた。

(2)深い学びを誘うには

第4次産業革命Society 5.0がキーワードとなる社

会においては、研究開発能力、学び続ける力、自ら考えて主体的に行動し社会の変革を実現する力が求められる。これらの要求に対応できる学生を育てるために、垂直的(専門的)学習と水平的(領域横断的)学習の2つの学びをバランス良く実施する。これにより、専門的知識の定着と活用を促し、学生自身が決定した問いの探究を通して創造性や独創性を涵養する。

学力には「見える学力=学んだ力」、「見えにくい学力=学ぶ力」「見えない学力=学ぼうとする力」の3つがある。従来の授業の目標は「見える学力」を育成することにあつた。これからは、3つの学力を積み上げるカリキュラムが必要である。

「わかったつもり」を「わかった」に導く深い学びを促進するためには、a)知識定着に主眼を置き、個人で行う内化、b)問題解決や知識活用に主眼を置き、グループワークを通して知識の再構築を行う外化、c)個人に最適化されたteachingを伴う内化が必要である。

事前学習では、メインの教材の他に、基礎的な理解を助ける教材や高度な内容を扱う教材を提供し、個人のレベルに対応する。

(3)コロナ禍の経験を軸とした改革

学習技術や基礎学力不足の学生、学習意欲や学習目的が欠如している学生、向上心に溢れる学生といった多様な学生が存在する。これらの学生を質の保証された学生と導くために、a)正課プログラム、b)準正課プログラム・サポート、c)正課外プログラム(部活動)を提供する。正課プログラムでは、「探索」を重視する教養、オンデマンドによる習得と高次のアクティブラーニングによる探求を目指したハイブリッド型授業、ジョブ型教育を行う。準正課プログラム・サポートでは、ピア・サポートの他に、インターンシップやボランティアなどへ誘導する。

(4)クロージング

オンライン授業は、学生の嗜好性に対応する個別最適化のチャンスである。「わかった」とその後の自ら問い直す「ゆらぎ」を繰り返すことで学生の深い学びが達成される。

3. 講演(2)：井上先生

井上先生の講演概要は以下の通りです。「コロナ禍での大学教育の改革」と「ポストコロナの工学教育」を柱として

- 1) タイトル：ポストコロナに向けた新しい教育方法－芝浦工業大学の取り組みと今後の展望－
- 2) 講演時間：14:50-16:05(講演60分+質疑応答15分)

3) 講演内容

(1) コロナ禍に伴う影響と対応

コロナによる退学を防ぐため、学生支援プロジェクト募金をもとに奨学金、ノートPC無償貸与、学内ジョブ雇用による経済的支援を行った。

オンライン授業の主な形態は、同時双方向授業、オンデマンド授業および両者の組み合わせである。学生がトラブルなくオンライン授業に参加するため、サーバの事前強化や過負荷試験、資料配付を行った。複数システムを科目に最適となるように使い分けた。遠隔授業に関するFDSD研究会のオンライン開催、学生サポートのため、ホームルームや懇談会、学習サポート室や就職サポートをオンラインで実施した。送料を大学が負担する図書館蔵書の宅配貸し出しサービスは学生から好評であった。

学生と教員へオンライン授業の利点と欠点についてのアンケートを行い、課題の把握と対応を行った。学生の理解度、出席状況、教員の負担状況についてもアンケートを行い、オンライン授業の質保証と継続的改善のためのデータとした。

(2) 教授法

コロナ禍とコロナ後の両方に適用できる方法として、ブレンディッド・ラーニングと反転授業がある。これらの授業形態は学生の能動的・自律的な学習を促進することができる。

ブレンディッド・ラーニングは、eラーニング(オンデマンド)と対面授業を組み合わせたものである。eラーニングは、知識の修得を目的として、時間や空間の制約がないことや自分のペースで学べるのが利点である。対面授業は、知識の確認や定着、活用を目的とする。学習意欲を維持させ、協同学習、演習やディスカッションが行えるのが利点である。

オンラインでの反転授業方法は、以下の通りである。最初にオンデマンド型授業を行った。次に、同時双方向形態(アクティブラーニング)にて、教員が学修のポイントと教え合いの手順を指示した。学生がオンライン上でグループに分かれ、グループワークを実施した。教員は各グループを巡回し質問へ対応した。全員が集合し、質問と回答を共有した。授業後に学生は課題を提出した。

対面とオンラインの最適な組み合わせと継続的な改善には、各種の情報システムに蓄積される学修データを分析するが重要である。

(3) テクノロジーと環境

コロナ禍とコロナ後の両方に適用できる方法として、オンラインPBL、オンライン留学と国際PBL、ハイブリッドクラスルームがある。

オンラインツールの機能活用と授業シナリオの構築により、履修者数500名、担当教員数15名、グループ数46の大規模PBLを実施できた。

オンライン国際PBLの取り組み事例として、IoTのハードウェア、ソフトウェアの遠隔協働開発を実施した。国際接続はオンライン、国内は対面とオンラインを併用するハイブリッド形式である。オンラインツールに加えて仮想現実を使用し、コミュニケーションの円滑化を図った。

ポストコロナの授業形態として、ブレンディッド・ラーニングの他に、ハイブリッドクラスルームがある。これは対面の学生とオンラインの学生が同時に授業を受ける形式である。感染防止対策による教室定員の制限や基礎疾患がある学生、海外の学生や社会人(リカレント教育)などに対して学修機会を提供できる。これら2つの授業形態における教員の役割として、オンライン授業のためのコンテンツ作成、対面授業におけるファシリテーションが重要となる。

ブレンディッド・ラーニングのための欧州成熟度モデルは科目レベル、プログラムレベル、機関レベルの3階層から成る。科目や科目を統括するプログラムにおける自主的な学習促進機能や意図した学習負荷とその効果に対して評価と改善をすべきであること、それらを機関が支援し、機関自身が果たすべき役割について定義している。

大学教育のデジタル化とデジタルトランスフォーメーションが重要である。デジタル化とは、デジタル技術により新しい価値を生み出すことである。新しい学修体験の提供、学生の多様性や進度に合わせた学修の実現、個人やチーム学修での活動状況を教員や学生本人が把握・分析することで、教育、学習成果の向上につながる。デジタルトランスフォーメーションとはデジタル技術を活用し、教育を提供するモデル、組織、プロセスを変革することである。また、大学間連携、国際・産学連携とデジタルトランスフォーメーションによる新しい教育モデルは、複数大学にまたがる科目履修を可能とし、これまでのリカレント教育・大学院教育の概念を変革する。

4. 学内実践報告：斎藤 一先生

斎藤先生からの報告概要は以下の通りです。

- 1) タイトル：インストラクショナルデザイン(ID)の基礎科目における遠隔と対面のハイブリッド授業の実践報告
- 2) 時間：16:10 - 16:30

続いて全体の質疑応答があり、西平 順副学長による閉会挨拶をもって、令和2年度フォーラムは終了となりました。

ICT活用による教育イノベーション推進 小委員会の活動報告

経営情報学部 システム情報学科
教授 長尾 光悦

本小委員会は、北海道情報大学の学生にとって有効な ICT 教育環境を検討するため、平成 30 年度から設置されているものです。現在、本学では、学生へのタブレット PC の無償貸与や、学習支援のための e ラーニングシステムである POLITE の運用、教育改善の PDCA サイクルを実現するための CANVAS の運用、電子教科書の導入など、様々な ICT を活用した教育環境の実現と運用を実施しています。しかしながら、学生の多様化やアクティブラーニングをはじめとする新しい教育方法の浸透などによって、現在提供している教育環境を時代にあった適切なものに改変していくことが必要とされています。

本小委員会では、本学の ICT を活用した教育支援環境を見直し、より効果的な環境の実現を目指しています。全学的な改善を行うことを目指しているため、以下のように各学科から 1 名以上、事務局から 1 名の委員を選定し、計 9 名で小委員会を構成しています。

【構成メンバー】

委員長：

長尾 光悦（システム情報学科）

委員：

内山 俊郎（システム情報学科）

向原 強（先端経営学科）

酒井 雅裕（情報メディア学科）

安田 光孝（情報メディア学科）

藤原 孝幸（情報メディア学科）

松田 成司（医療情報学科）

齋藤 静司（医療情報学科）

市川 泉（情報センター事務室）

令和 2 年度は、全 3 回の小委員会を以下の通り開催しました。

【開催日】

第 1 回小委員会 令和 2 年 9 月 29 日開催

第 2 回小委員会 令和 2 年 11 月 25 日開催

第 3 回小委員会 令和 2 年 12 月 17 日開催

令和 2 年度は、ターゲットを「令和 3 年度貸与デバイスの検討」、「新 POLITE の運用開始と改善」、「新 CANVAS の運用開始と改善」の 3 つに焦点を当て議論、検討を実施しました。

貸与デバイス

令和 2 年度は、全学科の学生に対して DELL 社製のタブレット型 PC である DELL Inspiron11 3195 2-in-1（以下、図参照）を無償貸与しました。



出典：Dell Web サイト

令和元年度においては、令和 2 年度の貸与デバイスを決定するにあたり、台数確保の問題やリースの問題により、当初貸与を予定していた機種の変更を余儀なくされたため、本年度は年度開始初期より貸与デバイスの選定を進めました。令和 3 年度貸与デバイスについては、COVID-19 の蔓延防止のために遠隔講義が中心となっていたため、リモート会議システムの利用などにも耐えうる機種を検討し、以下の HP 社製ノート PC を事前に確保し、令和 3 年度入学学生に貸与することとしました。

HP 社製ノート PC 仕様

機種：HP 14s-dk0099AU
プロセッサ：AMD Ryzen 3 3200U
(2.60GHz-3.50GHz, 1MB L2 キャッシュ)
メモリ：8GB
ストレージ：SSD 256GB
グラフィックス：AMD Radeon Vega 3
ディスプレイ：14 インチ、解像度 1920x1080
オーディオ：スピーカー、内臓マイク
Web カメラ：約 92 万画素
通信：WiFi、Bluetooth
インタフェース：ヘッドセット
USB Type-c3.1 ポート (1)
USB3.1 ポート (2)
HDMI ポート、
ネットワークポート
重量：1.53 kg



出典：HP Web サイト

新 POLITE の運用と改善

本学では、eラーニングシステム POLITE が運用されています。令和 2 年度より旧バージョンの POLITE を廃止し、新たな POLITE の運用を開始しました。

このため、令和 2 年度は、実際の講義での新 POLITE の利用を通して、各学科において要望や改善点に関する意見収集を行いました。意見収集の結果、動画要領の増加や提出課題のダウンロード時のファイル名の改善などの要望が寄せられました。この要望を eラーニング推進センター運営委員会において検討し、可能なものについては対応することにしました。

新 CANVAS の運用と改善

現在、講義における PDCA サイクルを実現するためのシステムである CANVAS が運用されています。旧 CANVAS は、Adobe FLASH を利用して構築されていました。Adobe FLASH は 2020 年に終了したため、HTML5 ベースの新 CANVAS に改修し、運用を開始しました。

新 CANVAS について各学科から改善点や問題点について意見収集を行いました。その結果、記述内容とコンテンツの整合性がとれていない部分などについての意見が寄せられたため、eラーニング推進センター運営委員会において検討し、修正を行いました。

また、貸与 PC に事前にインストールするソフトウェアについて検討し、全学科共通で必要とされるソフトウェアを基本とし、遠隔講義に必要とされる Microsoft Teams 等をインストールすることとしました。

新しい教育方法検討小委員会の活動報告

情報メディア学部 情報メディア学科
准教授 廣奥 暢

1. はじめに

新しい教育方法検討小委員会では、これまで「主体的な学び」を目指して、新しい教育方法について検討してきました。いくつかのワーキンググループ（以下 WG と略）が設置され継続して特定の課題について検討されています。本稿では CDIO フレームワークを参照し本学の教育方法の改善を進める CDIO サブ WG、enPiT2 への参加などを通して学生体験型科目や PBL 科目、AL 科目について検討する HIU プロジェクト教育検討サブ WG、英語での授業を含む国際性を身につけるための教育方法を検討する学内英語化検討 WG、現在の学生に適した教育方法を模索する新世代の学生に対応する教育環境検討 WG の活動について報告します 2020 年度は COVID-19 に見舞われ、対面による活動が著しく制限されたことから、これらの報告も COVID-19 の影響が随所に現れますことを予めお断りしておきます。

2. CDIO サブ WG の活動

2020 年 6 月にバンコクで開催予定だった 16th CDIO International Conference は、オンライン開催に変更されました。WG 代表であるソーラ先生をはじめ、福沢先生、ライアン先生がオンライン会議システムで参加し、本学での活動について発表されました。COVID-19 の影響がなければここには、会議参加の様子の写真が掲載されるか、7 月に実施予定だった学内での報告会の活動報告とその時の様子が掲載されるかしたはずなのですが、大変残念です。

3. HIU プロジェクト教育検討サブ WG の活動

言うまでもないことかもしれませんが、実際の授業で PBL 科目はかなりの制約を強いられたことは述べておきたいと思います。オンラインのツールを活用した例などもありそうですが、実際の所は情報を

収集してみないとわからない状態です。

このような状況下でも enPiT2（文部科学省「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成」）事業は、オンライン対応を進め継続して活動されたようです。WG 代表明神先生によると 4 名の学生が、はこだて未来大学開催のサービスデザインのサマースクール（オンライン開催）に参加、その後後期の PBL の最終報告まで到達したとのこと。学生の様子を見に行った（といっても比喻ですが）WG メンバーの先生方も慣れないオンラインでの活動にご苦勞された様子です。これも、昨年と同様であれば参加した学生を収めた写真などをここに掲載するところなのですが、残念です。

学部向け enPiT2 事業は今年度で終了となりますが過去 4 年間で 34 名の学生が参加し、他大学の学生から刺激を受けて成長したようです。また、関わった教員も地域課題の PBL による解決手法について学んだとのこと。この WG から enPiT2 に関わる部分はなくなるものの、得られた知見を来年度以降の学部横断プロジェクト学習等に反映し拡充していきたいという意向のようです。

4. 学内英語化検討 WG の活動

学内英語化検討 WG が、最も強く COVID-19 の影響を受けた WG かもしれません。5 月に計画されていた English Lounge は、オンラインで試行したのですが、突然の遠隔授業対応に追われる学生も参加しにくかったと思われます。今後はこうしたオンラインでの実施も検討して行くとのこと。

この WG では、例年 TOEIC 団体テストにも取り組んできましたが、2020 年前半は TOEIC Listening & Reading Test の試験会場での実施が見送られるなど計画通りには進められませんでした。

また、多くの講義で英語による授業を試みるイングリッシュ・デイも、COVID-19 により実施をあきらめることになりました。

5. 新世代の学生に対応する教育環境検討 WG の活動

この WG では、新世代の学生に対応する教育

環境を検討する中で、学生のeスポーツに関わる活動を支援してきました。人が集まるイベントはCOVID-19により中止が相次いだものの、オンラインでの活動はかなり実施されたようです。とりわけ、中止となった本学体育祭のかわりに、eスポーツサークルによってオンラインで実施した「バーチャル体育祭」は新聞にも掲載されました。WG代表斎藤一先生、メンバーの森川先生、河原先生の支援がって成功したものと思います。

また「eスポーツ×教育～話題のeスポーツの実態に迫るセミナー（オンライン開催）」に河原先生が「大学教育とesports～北海道情報大学の取り組み」と題して発表されるなど、WGの会議の回数は激減したものの、このような状況下では比較的活発な活動が行われていたようです。eスポーツに関わる活動を通して学生が主体的な学びを得ているという確信が得られつつあるように思います。

6. 小委員会本体の活動

2020年4月から3世代目となるPOLITE、すなわちPOLITE3の運用が開始され、そこに「遠隔授業のための研修会」のコースを設置し4月13日より公開しました。隼田先生、福光先生にも講師をご担当頂き、このコース上に教材を展開しオンデマンドで研修を受けてもらえる形にしました。また、対面研修会で4月17日に主に非常勤講師を対象に実施しました。

イベントの企画・実施小委員会に協力し2021年2月24日にFDラウンジを開催しました。FDラウンジは、例年行われるピアレビューに代わるものとして、教員間で遠隔授業に関する情報共有の目的で企画されました。

2021年3月には「遠隔授業のための研修会2」として「遠隔授業のための研修会」以降更新してきた内容を再編集してPOLITE3上に展開し、2021年度4月が再び遠隔授業でスタートするのに備えることとなりました。



7. おわりに

前年度審議されていた、授業時間の変更、時間割配置、浮きこぼれ対策、アクティブラーニングの導入、eラーニング導入等々、継続して審議すべき課題があったのですが、2020年度の活動はCOVID-19対策として行われることとなった遠隔授業への対応を優先することとなりました。今後これらの審議を再開するとしても、オンラインという授業形態が加わることにより前提条件が変わってしまうものも出てきそうです。例えば時間割配置については既に教務課によってオンデマンド型遠隔授業とリアルタイム遠隔/対面授業を考慮した配置が実践されています。

これまで進めてきた新しい教育法方法の導入が、突然強いられた遠隔授業の導入によって、変化を余儀なくされています。eラーニング導入は、ほぼ全ての科目で行われたと言って良いでしょう。一方で、PBLやアクティブラーニングなど、学生が集まって実施することを基本としていた形態は、実施できない状況となっています。eラーニングと合わせてPBL、アクティブラーニングをオンラインで展開することを模索するという新しい課題も出てきたということかもしれません。COVID-19は、まだ終息が見えていませんが、この1年我々が行ってきた新しい教育方法の実践から、COVID-19収束後にも生かせる知見を得られると期待し、それを今後の本委員会の活動に反映して行くことができたら幸甚だと思っています。

番外編

さて、まだ小委員会に割り当てられたページが1ページ残っています。これまでに比べて報告する内容が少ない、写真もないということからこのような仕儀となってしまいました。ここからは、「遠隔授業との戦いの記録」と題して、遠隔授業のための研修会の舞台裏について少し書き残そうと思います。以下、筆者の個人的な考え、思いに基づいておりますので、小委員会の活動報告とは切り離して番外編とさせていただきます。

2020年2月末に北海道が独自の緊急事態を宣言しましたが、その少し前に公立学校に一斉休校が要請されていました。この頃、新年度(2020年度)から新POLITEとしてPOLITE3(Moodle version 3ベース)に切り替わるようになっていたので、3月には新POLITEの利用説明会が行われました。POLITEの新しい機能が使えるようになっていたことは幸いだったと思っています。

同じ3月には卒業式、入学式の中止が決まり授業開始を4月16日に遅らせることも決まりました。我々教員は遠隔授業でCOVID-19に対応しなければならないという空気になって何をどうすれば良いのかと考えはじめていた時期だったでしょう。以前、宮西先生からの提案で運用をしていたSlackのワークスペースに「# 遠隔授業関連情報」のチャンネルを用意したのもこの頃だったでしょうか。(あまり良くはおぼえていません)ここに多くの先生が持ち寄って下さった遠隔授業に関係する情報は、後に遠隔授業のための研修会の教材を作る時に大変役に立ったのでした。3月末の頃には、多くの先生方が漠然と遠隔授業への不安を抱えていたのではないかと思います。そうしたことから4月6日の時点で教員を対象とする研修会を企画するようにFD委員会への指令が下ったのでした。4月27日に繰り下げられた開講前に研修会を実施しなければならないことになり、大急ぎでPOLITE3にコースを設置し、教材作りをスタートしたわけです。隼田先生は反転授業の経験から授業ビデオの作り方、福光先生は、Googleのサービスの利用やビデオ会議サービスの利用というようなことを担当していただけることにな

りました。Slackのチャンネルに情報を寄せてくれていた谷口先生や伊藤正彦先生にもお願いすることになるかもしれないと話していたところでしたが、結局時間もなく、教材も必要最小限の状態、実習室で行われる対面の研修会、4月17日を迎えることとなりました。教材作りは大変でしたが、遠隔授業に使えるようなMicrosoftやGoogleのサービスについて調べ、大学発行アカウントとの関係を調整し、と様々な事柄に目を配る必要がありました。

私事ながら担当科目のいくつかはMoodleのコースを利用したブレンド型授業として展開していて、さらに少し前から講義部分をビデオで掲載するというにも取り組んでいたものですから、4月開講科目のうち1つはかなり遠隔授業に使える状態になっていたのが幸いでした。そうでなければ、自分の講義で手一杯で、4月以降いくつも発生したPOLITE3に関わる不具合の調査というようなことはできなかったでしょう。これまでeラーニング推進センタースタッフとMoodleに関わる情報共有をしてきたことからこうした協力も円滑にできたのだと思っています。

本学の遠隔授業対応は一応の成功をみたと思っています。本学では多くの先生が、通信教育を担当していて離れた学生の質問に答える経験を持っていたこと、教員間の情報共有をするためにICTのサービスを使い始めていたこと、POLITEを対面授業で利用する教員が多数いたことなどが大きな要因だったと思います。また、私個人としては、教員間の情報共有に加え、日ごろの情報センターとの連携、eラーニング推進センターとの連携があって様々なトラブルに対応することができたと思っています。

結局の所「情報の共有」が勝利の鍵であり、それが対面では難しい今こそICTを最大限活用していくことが我々に求められているのだと思うわけです。情報の共有という意味でこれまで行ってきたFD活動が、遠隔授業対応成功の遠因となっているという結論にたどり着いた次第です。ICTを学ぶ学生とともに我々も新しいものを取り入れ、変化していくことが、この難局を乗り越えていくために欠かせないのだと思います。

2020年度SD活動報告

SD委員会 委員長 安倍 隆

2020年度（令和2年度）のSD活動は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、例年参加している職員研修会の多くが中止になるなど、従来と同じような活動はできなかった。一方ではオンラインによる様々な研修会が開催され、以前より多様な研修会に参加できたという実績もあった。

以下、本学が企画した研修会の実績と、今後の計画を示す。

1. 本学企画によるSD研修会の開催

(1) 遠隔会議および在宅勤務支援のためのTeams講習会

- ▶日時：6月5日（金）16：00～17：00
- ▶場所：松尾記念館実習室3
- ▶内容：新型コロナウイルス感染拡大でWeb会議の活用や、在宅勤務を余儀なくされることを想定し、マイクロソフト社のMicrosoft365およびTeamsの利用方法を学んだ。
- ▶講師：情報センター 細川泰史氏 他
- ▶参加人数：職員15名

(2) SCC人事課による階層別研修会

SCC人事課が開催する階層別研修会は、例年eDC本社ビルにてグループ合同の集合研修の形であったが、本年はWeb会議システム（Zoom）を利用した形や、講師が来校する形で、次の2種類の研修会を開催した。

①新入職員対象研修会およびフォロー研修会

- ▶日時：5月15日（金）13：30～16：30と、10月29日（木）15：00～17：00
- ▶場所：5月はSCC本社からのリモート実施、10月は対面で本学2階会議室において受講
- ▶受講者：田村亮太（情報センター）、廣田隆一（学生課）、八重原史貴（教務課）
- ▶内容：5月はeDCグループ2020年度新入社員受入研修テキストを基に、新入職員としての基本を学び、10月にはその再確認や社会人基礎力などについて学んだ。
- ▶講師：SCC人事課 一色和広課長 他



②昇格者対象階層別研修会（各2日間）

次の2種類の研修会がSCC本社からのリモート（Zoom利用）で開催され、本学からは3名が参加した（eDCグループ全体で対象職員が参加）。

階層	3級(係長職)	4級(管理職)
対象者	池田 未央 大山 康成	木村 肇
実施日時	11月5日(木)午後 11月6日(金)終日	11月12日(木)午後 11月13日(金)終日
内容	監督者の役割、基本行動、部下育成等	管理職の役割、基本行動、マネジメントの基礎、人事労務関連等
講師	(株)ジェック	(株)ビジネスコンサルタント

2. 今後のSD活動について

(1) 学内研修会の計画的な開催

本年度は、コロナ対応に追われ計画的に学内研修会を開催することができなかった。

大学認証評価第3期においては、現在（他大学でも）あまり実施されていない「戦略的な企画能力の向上を目的とするもの」と「マネジメント能力の向上を目的とするもの」の2つが求められると言われている。

今後は、文部科学省から指針（「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」や「私立大学等改革総合支援事業」など）の要件を満たすことも意識して、計画的に学内研修会を企画していきたいと考えている。

(2) 北海道FD・SD協議会の活用

本学も加盟している「北海道FD・SD協議会」（事務局：北海道大学高等教育研修センター）は、本年度はほとんど活動できていなかった。次年度は積極的に関わり、本学からも研修内容のリクエストをすると共に、共同で研修プログラムを開発する等、本学にとっても有益な研修会の開催を目指したい。

また、今年度は北海道大学高等教育研修センターの研修会が開催されなかったために、利用できなかったが、次年度は昨年度同様に開催されるであろう各種研修会への参加をさらに促進したい。

(3) オンライン研修会の活用

次年度も、有益な内容の研修会がオンラインで開催されることが期待される。それらの情報を積極的に共有して、オンライン研修会への参加を促進したい。

FD・SD活動 行事実績 (2020年度)

日 程	行 事
4月13日(月)	遠隔授業のための研修会のオンデマンドコンテンツ開設
4月17日(金)	遠隔授業のための研修会(対面)
5月15日(金)	新入職員対象研修会およびフォロー研修会
6月 5日(金)	遠隔会議および在宅勤務支援のためのTeams講習会
6月 8日(月)～ 6月10日(水)	CDIO International Conference(オンライン開催)参加
7月27日(月)～ 8月 7日(金)	前期授業評価アンケートの実施
8月11日(火)～ 8月14日(金)	enPiT2サマースクール(公立はこだて未来大学)参加
8月19日(水)～ 8月29日(土)	前期(夏期)授業評価アンケートの実施
10月29日(金)	新入職員対象研修会およびフォロー研修会
12月14日(月)～12月28日(月)	後期(前半)授業評価アンケートの実施
12月17日(木)	enPiT2北海道・東北グループ合同発表会
1月12日(火)～ 1月27日(水)	後期(後半)授業評価アンケートの実施
2月 8日(月)～ 2月13日(土)	後期(冬期)授業評価アンケートの実施
2月24日(水)	FDラウンジ開催
3月 5日(金)	2020 年度北海道情報大学FD・SDフォーラム開催
3月15日(月)～ 3月31日(水)	SD研修会(情報セキュリティチェックテスト)

FD委員会、小委員会等の活動実績(2020年度)

委員会・WG名	月例ミーティング等日程
FD委員会	7/3(金)、9/7(月)、10/9(金)、11/6(金)、12/4(金)、1/7(木)、2/5(金)、3/24(水)
イベントの企画・実施小委員会	6/5(金)、7/3(金)、8/27(木)、9/4(木)、1/13(水)
ICT活用による教育イノベーション推進小委員会	9/29(火)、11/25(水)、12/17(木)
新しい教育方法検討小委員会	11/27(金)、3/10(水)
enPiTサブWG	8/3(月)、9/25(金)、12/4(金)
新世代の学生に対応する教育環境検討WG	2/4(木)

編集後記

今回多くの記事に、コロナ/COVID-19や、オンライン/遠隔授業という言葉が見受けられます。それは私たちが今新型ウィルスの脅威にどれほどの影響を受けているかを反映しているのでしょうか。この脅威を期にいろいろな変化も起きていると思います。それがどのようなものだったのか数年後に振り返る時に、このニューズレターは役に立つのかもしれませんが。コロナ禍にあってFD・SDの歩みを止めなかった貴重な記録として。

情報メディア学部 情報メディア学科 准教授 廣奥 暢